

g*g

芸術市民といっしょに創る
芸工大広報誌「ジー・ジー」
Vol.27 SUMMER 2014
東北芸術工科大学



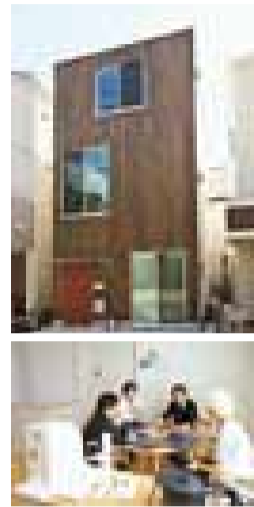
これからの暮らしを提案。無印良品の家の都市型住宅「縦の家」。

無印良品の家 × 建築・環境デザイン学科

無印良品の家が2014年4月に発売した都市型住宅『縦の家』。都市部の密集地でも明るく広く、暖かく過ごせる木造住宅を目指した『縦の家』の開発には、芸工大が深く関わっています。一昨年に始まった、無印良品の家と建築・環境デザイン学科の産学共創「未来の家プロジェクト」では、日本の住まいの形、環境、木造住宅と温熱性能の関係を研究。原寸大の住宅の構造モデルと家具を演習室に配置し、ワークショップを通して学生の自由なイメージを膨らませ商品化へとつなげていきました。『縦の家』最大の特徴は、家の中央にある鉄のスケルトン階段。1階から3階までの吹き抜けの空間に階段を介して少しずつ段差を設けたスキップフロアは、光と風、熱、そして家族の気配をゆるやかにつ

なぎ、家全体に一体感をもたらします。階段を腰掛けに使うなど、家族間のコミュニケーションを真ん中に置いた、新しい設計です。竹内昌義教授は「学生ならではの自由な発想はおもしろく、商品化に耐える提案をすることはいいトレーニングになったと思います」と学生の成果を捉え、山形で建築・環境デザインを学ぶ意義について次のように見解を述べました。「これからの時代は、地方が最先端のことを進めていこうと思います。例えば人口減少と高齢化が首都圏で大規模に起こったとき、山形での事例がすぐに応用できるでしょう。どのように暮らし、地域とどう関わるのか。地方と首都圏の両方に対応できるのが芸工大です」。

WEB 無印良品の家の開発担当者と学生の声を伝えます。



東京と
芸工大

地域と密接に関わりを持ちながら行ってきた、芸工大の産学連携。

県内での事例はもちろん、最近に関東での連携も増え広がりを見せています。

東北の、山形の東北芸術工科大学だからできる関わり。学生ならではの発想を活かしながら

安定したデザイン力を発揮した、東京と山形での事例をそれぞれ紹介します。



時の重みを持った商業施設 「マーチエキュート神田万世橋」。

マーチエキュート神田万世橋 ×

美術史・文化財保存修復学科+建築・環境デザイン学科

現在の中央線神田駅から御茶ノ水駅の間
に1912年に誕生し、2006年にその歴史を閉
じた旧万世橋駅。人々の記憶に残る赤レン
ガ造りの万世橋高架橋が、その歴史と記
憶を宿したまま新たな商業施設『マーチ
エキュート神田万世橋』へと、2013年9月に生
まれ変わりました。このリノベーション計画を
手がけたのは、建築・環境デザイン学科の
竹内昌義教授。「関東大震災での焼失や
太平洋戦争を経て、交通博物館として愛
されてきた“時の重み”やレンガの“味”、アー
チがつくる空間を大事に、押し出すことを考
えました。デザインを施してどうこうするの
ではなく、あるものを活かしてメリハリをつけ

るリノベーションです」と竹内教授。更に、リ
ノベーションの途中に発見されたのが、物
資難の時代に鉄道のレールを建物の構造
としていた部材です。当時の遺産として保
存することになり、雨水などで痛んでいたも
のを美術史・文化財保存修復学科と、附
置機関の文化財保存修復研究センターで
防錆・保存処理を実施。2階の通路にオブ
ジェとして展示されています。ガラスに囲ま
れた展望カフェデッキで電車の写真を撮る
鉄道ファン、旧万世橋駅を懐かしむ年配の
方々も多く訪れています。

WEB 美術史・文化財保存修復学科との関わり、
今後の展開について伝えます。



建築・環境デザイン学科

毎日過ごす家や学校、公園。インテリアや街並みにも、
デザインの力は息づいています。建築・環境デザイ
ン学科では、部屋の内装などのインテリアから、住宅
や公共施設、都市、さらには壮大な地球環境やエネ
ルギー施策まで、様々なスケールで私たちを取り巻く
空間のデザインを学びます。



こどもの夢を育む住宅街が建設中。

リスト株式会社 × プロダクトデザイン学科+建築・環境デザイン学科

横浜市に本社を置く分譲マンションや一
戸建て・注文建築・仲介の総合不動産
会社のリスト株式会社と芸工大が連携し
た新築戸建区画『リストガーデン横浜ゆ
めまち』が2014年の春に着工しました。
建築・環境デザイン学科の学生が考えた、
日常の空間を「遊びの場」に変えてしま
う間取りや、プロダクトデザイン学科の学
生が考えた「こどもの創造力」を伸ばす

機能を備えた備え付けの家具など、次世
代を担う“こども”をキーワードにデザイ
ンされた住宅が、実際のモデルハウスと
して今年の夏に完成予定です。また、この
『リストガーデン横浜ゆめまち』のPRポ
スはグラフィックデザイン学科の学生が担
当。この街に暮らす家族がつながり、夢
を持ちながら成長していく様子をグラ
フィックに表現しています。

HEADLINE



台湾と京都、山形の合作を横浜で。

横浜トリエンナーレ × 美術科

東北から新しい芸術の可能性を探る課外
活動グループ〈東北画は可能か?〉の参
加学生を中心とする在学生約20名が、京
都造形芸術大学と台北芸術大学との共
同で、横浜トリエンナーレに出品される舞
台装置の装飾画を描いています。地域文
化の勉強会を重ねながら描く〈東北画は
可能か?〉の取り組みに現代美術家のや
なぎみわ氏が共感。台湾での共同制作と

してステージに用いる背景画を手がけた
後、ステージの土台部分を覆うスカートの
装飾画を芸工大で描いています。画のサ
イズは7.5m×1.2mが1点と、1.3×1.2mを2
点という巨大なもの。6月末までに仕上げ、
今年開催される横浜トリエンナーレには、
絵画を元に華飾したものが舞台装飾と
して出品されるほか、山形ビエンナーレにも
絵画として展示予定です。

山形と 芸工大



学生のアイデアと企業の底力から生まれた、沢山のさくらんぼグッズ。

地元企業7社 × プロダクトデザイン学科+グラフィックデザイン学科

6月21日、22日に文翔館と山形市七日町大通りを会場に行われる「日本一さくらんぼ祭り」も、今年で3回目。「すこだまつながる、山形。(すこだま=山形弁で「すごいたくさん」の意)」をコンセプトに、祭りの参加者と地域の企業や商店、観光客と産地、様々な年代の人々がつながることで、東北を元気にしていくことを目的としています。プロダクトデザイン学科とグラフィックデザイン学科では県からの要請を受け、地元企業7社が提案する新しいさくらんぼグッズの商品開発に協力しました。県内企業7社の各希望テーマに沿って学生がアイデアを提案し、企業と協調しながら山形の魅力発信につながるアイテムとして仕上げました。当日は、祭

りのキャラクターを型抜きした木製のハガキや、コースター、さくらんぼの枝で染めた絹糸を活用した柔らかな色合いのオブジェなど、12点の新製品をお祭りに出品。指導を担当した三橋幸次教授は「企業のテーマが先にあったことで、昨年より着実に効率よく、学生のアイデアを活かし県内企業の底力を発揮したものづくりができたと思います」と、手応えを語りました。山形県商工労働観光部商業・まちづくり振興課 県産品振興主査の佐藤佳子氏は、「新しいお土産商品で、さくらんぼシーズン以外でもさくらんぼであふれる山形にしたいですね」と、今回生まれた商品が山形のお土産の定番となっていくことに期待を寄せました。





山形DCによる駅施設の活性化に協力。

山形駅+赤湯駅 × 建築・環境デザイン学科

6月14日から始まった大型観光キャンペーン「山形デスティネーションキャンペーン(山形DC)」にあわせ、山形駅と赤湯駅の待合室がリニューアルしました。手がけたのは建築・環境デザイン学科。山形駅の待合室は、スペース内に土産物屋店舗、旅行店舗、駅弁売店、観光案内所などを集め、初めて訪れた人にもわかりやすい配置にしました。パス作成を担当した大学院2年生の石母田諭さんは、「県内企業である天童木工の椅子や穂積繊維のクッションなどを採用し、待合室にただで山形を知ることができる空間になっています。県産杉のぬくもりある雰囲気の中、少しの時間でもリラックスしてもらえたら嬉しいです」と、語っています。

山形新幹線つばさの停車駅でもある赤湯駅の待合室は、県産杉の合板を使用したボックス型の家具、240個を配置した自由度の高い空間になりました。スタッピング可能なボックスを使ってレイアウトするアイデアは4年生の依田聡太さんによるもの。学生たちが工夫をしながら、看板やポスターが遮っていた視界を開放し待合室からホームに到着する新幹線が見られるようにしました。委託した南陽市観光協会の須藤孝一さんは「使い方を变化させていけるのがいいですね。新幹線の窓から赤湯駅を見て、降りてみようかな、と思うような駅にしていきたいと思っています」と語り、今回のリニューアルをステップに地域と連携を図る考えを示しました。

WEB 制作に携わった学生の声を届けます。



パストラボ山形をビジュアルでサポート。

パストラボ山形ワイヴァンズ × グラフィックデザイン学科

2014年度からNBLの下部リーグにあたるNBDLに参入する山形県のプロ・バスケットボール・チーム〈パストラボ山形ワイヴァンズ〉。このチームロゴのデザインを、グラフィックデザイン学科の学生が担当しました。2013年11月に依頼を受け、学生有志13名でアイデア出しからデザインを検討。チーム名の由来である翼を持つ伝説のドラゴン「ワイヴァーン」をモチーフにした、ホー

ム戦とアウェイ戦用の2種類のダイナミックなロゴが完成しました。最終的なデザインを仕上げたグラフィックデザイン学科4年の後藤はるかさんは、「このロゴと一緒にチームが羽ばたいてほしい!」と、5月29日に行われたロゴの発表会見で話しました。今後、チームユニホームのデザインや試合イベントの企画などにも積極的に関わっていく予定です。

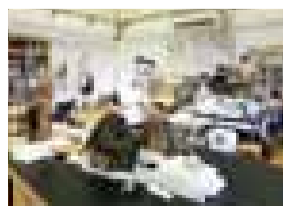


地域振興と文化財の保存活用。

地域の遺産 × 文化財保存修復研究センター

2014年4月より文化財保存修復研究センター長に就任した澤田正昭教授。澤田教授は国内外の石造文化財の現場で活動を続けており、イースター島のモアイ石像、カンボジアのアンコールワット、ペルーのマチュピチュなどの世界遺産にも関わる保存科学領域の第一人者。東北・山形に存在する地域の文化財を守り、その活用の技術的課題について地域の方と共に語り合う場と

して、連続公開講座を開講しています。第一回は6月12日に開催。「地域振興と文化財保存」と題し、地域住民の連携や教育の場への活用、観光資源としての活用など、地域に根ざした文化財のあり方について考えました。次回は10月16日(木)に美術史・文化財保存修復学科/同センターの藤原徹教授から、屋外彫刻の保存と修復のあり方について開講予定です。



美術史・文化財保存修復学科

大切なものを守り続けていきたい。美術作品や文化財は、今を生きている人たちが寄り添ってこそ後世へと伝えることができる、かけがえのない存在。美術史・文化財保存修復学科では「絵画修復」「立体作品修復」「保存科学」の3分野を専門的かつ横断的に学び、正しい知識と技術を身に付けていきます。



1

文芸学科4年荒川匠さんの小説 「ガンスミス」が幻冬舎文庫より全国発売

文芸学科4年の荒川匠さんの小説『ガンスミス』(580円+税)が、幻冬舎文庫より、5月15日に全国発売されました。世界の秩序と軍事地図を塗り替える威力を持った新型銃を前に、銃職人たちの葛藤を描くアクションサスペンス。荒川さんが2年次の課題で取り組んだ作品が元となっており、山川健一教授の指導を受け発売となりました。

URL: <http://www.gentosha.co.jp/book/b7792.html>



2

スマートフォンでも、TUAD 東北芸術工科大学の公式アプリ配信

東北芸術工科大学のスマートフォン向け公式アプリの配信を2014年4月から開始。アプリでは受験生向け大学パンフレットや、学科コース紹介の動画のほか、オープンキャンパスや入試情報などの情報を簡単に見ることが可能です。iPhone iOS版と、Android版の2種類をリリースしていますので、Apple App storeかGoogle playからぜひダウンロードしてみてください。



3

山形を語る新たなブランド「aGarey」が 「maison&objet」に出展

共創デザイン室を中心に、2013年よりプロダクトデザイナーで客員研究員の島村卓実氏を招いて、県内の製造業6社と食と生活に関わる商品ブランド「aGarey」を開発。1月24日～28日にフランス・パリで開かれた製品見本市メゾン・エ・オブジェに出展しました。今後、国内の製品展示イベントにも出品していく予定です。

URL: <http://www.maison-objet.com>



6

生涯学習プログラムで育んだ表現が結実 「+art展2013」を開催しました

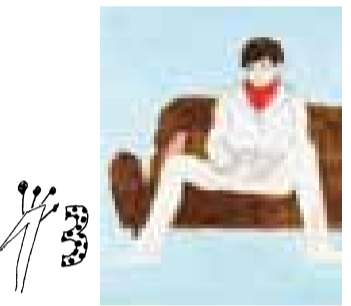
東北芸術工科大学生涯学習プログラムの2013年度開講の講座のうち、16講座(約70名)の受講生と担当講師による作品展「+art展2013」を本館7階ギャラリーで3月18日～28日に開催。制作への眼差しや表現する楽しさ、受講を通じたつながりの成果を披露しました。また同時に「クリニカルアートやまがた」の紹介コーナーも併設しました。2014年度後期の講座を開催しますので、お気軽に資料をご請求ください。

URL: <http://plusart.tuad.ac.jp/>

幽玄なる能楽世界。 水上能楽堂伝統館薪能を開催

9

日本を代表する能楽師、観世鏡之丞さんらによる「薪能」を5月12日本学水上能楽堂「伝統館」にて開催しました。約700年の歴史を持つ能は、ユネスコ世界文化遺産に指定されるなど、世界的な舞台芸術のひとつとされています。



13

阿部友美さんが「トーキョーワンダーウォール」で審査員賞を受賞

若手クリエイターの支援育成を目的に、東京都とトーキョーワンダーサイトが連携して実施している公募展「トーキョーワンダーウォール公募2014」で、美術科日本画コース3年の阿部友美さんの作品「a rest」が、審査員賞(O JUN)を受賞。阿部さんの作品は、東京都現代美術館で6月7日(土)～29日(日)まで開催される入選作品展にて展示されます。



10

企画構想学科が商品開発した「特恋 ミルク8.2チョコレート」が全国発売!

企画構想学科がUHA味覚糖と連携して商品開発を行った「特恋ミルク8.2チョコレート」が全国で販売されています。コミュニケーションを生むきっかけとして、箱のパッケージに様々なメッセージが書いてある点の特徴です。



4

山形R不動産がリノベーション 「素材を楽しむ開放的空間の家」

建築・環境デザイン学科が千歳不動産と協働で展開する〈山形R不動産〉では、山形市内の集合住宅「ベルゾーネかごた」(山形市籠田)をリノベーションし、3月16日にオープンハウスを開催。本件は〈山形R不動産〉が手掛けたリノベーション物件の第5弾。今までにリノベーションした4件はすべて入居済みとなっています。山形R不動産URL: <http://www.realyamagataestate.jp/>



コンケラー・学生デザイン コンテストで金、銀、銅を受賞。 多数入選しました

7

封筒や便せんなどを展開するイギリスのステーションリーメーカー〈コンケラー〉が実施しているコンケラー・学生デザインコンテストで、グラフィックデザイン学科3年生の出品者が金賞、銀賞、銅賞を受賞しました。また、佳作・入選も多数出ています。金賞: 西澤志野「pardonor」、銀賞: 杉野陽平「ANYHAIR」、銅賞: 笠原有「瓦屋根普及プロジェクト」、佳作: 河合夏美/鏡有希/武田香葉子/粒木まり恵/津留拓也、入選: 今野志保/佐藤理央/柚かんな/武田香葉子/筒井薫子/中野愛梨/前山千紘/宮崎花怜/米澤知世/田畑瑩

「半農×半映画」プロジェクトの 試写会とトークイベントを開催

11

映画人の育成を手がける「映画24区」が山形県鶴岡市で企画・運営を行う「半農×半映画プロジェクト」短編映画の完成試写会とトークイベントを、映像学科の試写室サクラダシネマで開催。農業を体験しながらワークショップ(脚本コースと俳優コース)を行い、富樫森監督総合監修のもと、映像学科4年の風間太樹さんを含む3名が監督として3本の映画を制作。スタッフとして映像学科の学生合計9名が参加しました。



田中望さん、浅野友理子さん、 平野有花さんの絵画を山形市が購入

山形市の意向により、大学院洋画領域2年の田中望さん、大学院洋画領域1年の浅野友理子さん、美術科版画コース4年の平野有花さんの作品3点を山形市に購入いただきました。なお、この作品は次年度以降の公開予定となっています。◎出品作家と作品名: 田中望「ひのものとくに」/浅野友理子「土に響る」/平野有花「静厳」

大石芳野写真展 「FUKUSHIMA・土と生きる」を開催

8

文明哲学研究所では、福島第一原発の事故後の2011年5月上旬から1年半に渡って写真家の大石芳野氏が撮影した写真展「FUKUSHIMA・土と生きる」を4月22日～5月2日に開催。また同時にフィリップ・シェエール「ダンス・パフォーマンス公演「FUKUSHIMA・土と生きる」」も開催しました。文明哲学研究所は、「核」廃絶と世界平和に向けた活動の一環として現代文明の価値を問い、新たな文明を創造する活動を探究しています。



12

脚本、制作の全てを芸工大生が担当 山形を紹介するラジオ番組が放送開始

企画構想学科のボブ田中教授が主宰するチュートリアル(広告ラボ)の学生18名が、エフエム山形との共同で番組構成から脚本、制作までを担当した新しいラジオ番組「芸工大の! いんねがっす山形!」が放送開始。山形のいいところ、おいしいところを探し紹介する番組で、今後月に1回のペースで継続予定です。

五島卓二さんのCG作品が 明石市立天文科学館の プラネタリウム入口にて投影

14

大学院ビジュアルコミュニケーション領域2年の五島卓二さんのCG作品が、1月14日～3月14日に、明石市立天文科学館のプラネタリウム入口にて投影されました。このCG作品は、同館で現存・使用しているプラネタリウムの投影機「Zeiss Jena Universal Projektion Planetarium Typ 23/3」(日本第1号)をモチーフにCG化したものです。



三瀬夏之介美術科准教授が 第32回京都府文化賞奨励賞を受賞

日本画家の三瀬夏之介美術科准教授が、京都府文化賞の第32回で、奨励賞を受賞しました。この賞は、昭和57年度に創設され、奨励賞は新進の芸術家等で、文化芸術活動における業績が特に顕著である方に授与されます。京都府美術賞関連ページURL: <http://www.pref.kyoto.jp/bungei/bunkasyou.html>

NEWS & TOPICS



16

本学での大規模なLED照明への施設改修が、「照明普及賞」を受賞

この度、芸工大で行った大規模なLED照明への施設改修に対し、一般社団法人照明学会「照明普及賞」を受賞しました。施設の企画、設計、施工などに多大な功績のあった個人、法人などに年度毎に与えられるもので、賞の選考は、視環境、照明技法、照明効果などの観点から総合的に審査されています。5月29日に東京大学伊藤国際学術研究センターで行われた表彰式に参加し、表彰状と記念品を受領しました。



17

芸術文化の振興へ新たな潮流 韓国文化芸術教育振興院との交流協定

芸工大は、韓国文化芸術教育振興院との交流協定を、日本の大学としては初めて5月21日に締結いたしました。2013年12月19日・20日で京都造形芸術大学を会場に開催された「ALIA(※)国際会議」にて、本学の被災地支援活動について根岸学長が紹介。子どもたちへの芸術文化の普及活動に注力している韓国文化芸術教育振興院のパク院長が強い関心を示し、この度の教育振興院、京都造形芸術大学、本学の三者の交流協定へと繋がりました。
※ALIA(アリア):「ヨーロッパ芸術教育協議体(ELIA)」を雛形に、そのアジア版として韓国芸術総合学校(韓国・ソウル)の呼びかけで2012年10月に設立。



18

南雲貴穂さんの写真作品「華の河」が富士フィルムフォトコンテストで銀賞
プロダクトデザイン学科2年生の南雲貴穂さんの写真作品「華の河」が、第53回富士フィルムフォトコンテストの自由写真部門「ネイチャーフォト部門」で銀賞を受賞。受賞作品は東京のほか、大阪、福岡、名古屋、仙台に巡回展示される予定です。さらに第48回山形県写真展でも入選しました。



21

企画構想学科3年生が担当した「あやめREPO特別号」が発行

企画構想学科3年生10名が、長井市の市民参加型コミュニケーション情報誌「あやめREPO特別号2014.3 vol.22」の企画、取材から編集までを担当し市内全世帯へ15,000部が配布されました。長井市が推進する生ごみを資源とした地域づくり「レインボープラン」の特集となっています。



24

上野の森美術館大賞展に在学学生、卒業生が多数入選しました

第32回上野の森美術館大賞展に日本画コース卒業生の新島知夏さん、土井沙織さん、大学院洋画領域2年の佐藤彩絵さん、大学院日本画領域2年の中村夏海さん、吉田悠希さん、美術科洋画コース2年の伊久美大悟さん、日本画コース4年の阿部早苗さんが入選。上野の森美術館と京都府京都文化博物館で展示されました。



27

グラフィックデザイン学科の合同作品展「GRAPHIC PRESENTATION 2014」

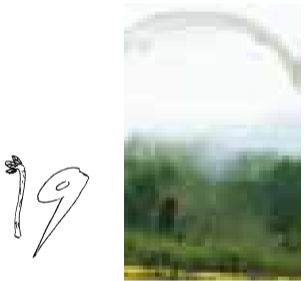
グラフィックデザイン学科の3、4年生126名による合同作品展「GRAPHIC PRESENTATION 2014」を5月23日～31日に本館7階ギャラリーで開催しました。学生が授業で制作したイラストレーションやポスター、立体作品、パンフレットなどの選りすぐりの作品を約200点展示しました。

28

市民と大学教員による「やまがたトークカフェ」を開催

「平成26年度まちなか再生支援事業」を芸工大と山形市で契約し、「やまがたリノベーションスクール」として持続可能な「まちなか居住」と「にぎわいの創出」に取り組むことが決定。キックオフイベントとして、七日町商店街振興組合理事の佐久間太樹氏などをお招きし、まちなか再生について考える「やまがたトークカフェ」を6月18日に建築・環境デザイン学科の実習室で開催しました。

RECORDS



19

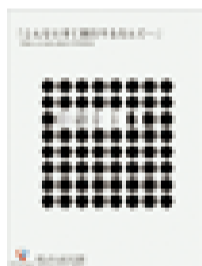
田畑万葉さんが、全日本パラグライダー学生選手権 Open Classで準優勝

美術科洋画コース3年でパラグライダーサークル(AERAIL)に所属する田畑万葉さんが、茨城県で3月11日～14日に開催された全日本パラグライダー学生選手権2014 in 足尾に出場。ターゲットへの着地精度を競うOpen Class部門で準優勝しました。また、団体戦では本学と山形大学パラグライダー部との合同チーム(ソアリングシステム)が優勝しています。

22

山形県留学生日本語スピーチコンテストで林イランさんが3位入賞

山形霞城ライオンズクラブが主催し、2月15日に開催された第5回山形県留学生日本語スピーチコンテストで、企画構想学科1年生の林イランさん(韓国・写真中央)が3位に入賞。友人とその母との日本ならではの習慣などを通じて感じた「母の愛情」についてのスピーチを行いました。



25

辻敦洋さんが、がん征圧ポスターデザインコンテスト最優秀賞を受賞

公益財団法人 日本対がん協会が主催する第2回がん征圧ポスターデザインコンテストにおいて、グラフィックデザイン学科4年の辻敦洋さんが最優秀賞を受賞。最優秀賞作品は、9月のがん征圧月間をアピールするためのポスターとして活用されるとともに、全国の自治体、保健所、病院などで掲示されます。

29



文化財保存修復研究センターが平成25年度研究調査報告会を開催

文化財保存修復研究センターでは、平成22年度から26年度の5年間にかけて、文部科学省の採択を受けた「複合的保存修復活動による地域文化遺産の保存と地域文化力の向上システムの研究」を実践しています。その調査・研究の成果の発表・報告として、平成25年度研究調査報告会を3月15日に本館207講義室で開催しました。
URL: <http://www.iccp.jp/>



20

連携企画商品が山形エクセレントデザイン2013で大賞受賞

企画構想学科とグラフィックデザイン学科の教員と学生が商品企画などを担当した『純米吟醸酒 つや姫なんどでも』(東の麓酒造(南陽市)が山形エクセレントデザイン2013でエクセレントデザイン大賞を受賞しました。この他にも本学の産学連携を担う共創デザイン室が関わった商品や卒業生の作品など5点が受賞しています。

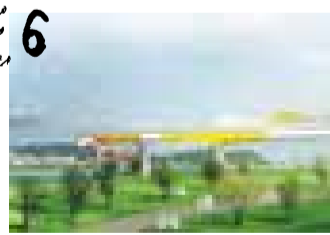


23

東京春季創画展に、古田正洋さん、中村夏海さん、横濱明乃さんが入選

幅広い世代の仲間達が個性ゆたかに現代日本画の創造を目的とする(創画会)主催の第40回東京春季創画展に、卒業生・日本画コース副手の古田正洋さん、大学院日本画領域1年の中村夏海さん、日本画3年の横濱明乃さんが入選しました。
URL: <http://www.sogakai.or.jp>

26



エマニュエル・ムホー准教授が、台北市の地下鉄プロジェクトを進行中

エマニュエル・ムホー准教授が、台湾・台北市で建設中の地下鉄環状線「Circular Line」の構造物や列車にカラフルなパブリックアートを展開するプロジェクトを進めています。この壮大なプロジェクトは、准教授が2011年に台北市政府捷運工程局(DORTS)から受託。2016年の開通までの期間に、台北市民などを対象とした色のワークショップも開催予定。

細川護熙学園長が辞任 後任者は選任せず

学校法人東北芸術工科大学は、5月28日の理事会において、細川護熙学園長より提出されていた辞任届を受理し、5月31日付での辞任が承認されました。学園長の後任者については当面選任せず、空席のままとします。

30

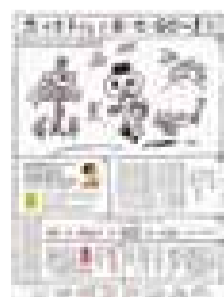
さあ、みちのおくへ。
つながりはじめた
「山形ビエンナーレ」。

東北の魅力をアート力で掘り起こし、全国へ、世界へ発信する「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ2014」。9月20日から10月19日の開催に向け、多くのアーティストが企画を進めています。アート、音楽、詩、ファッションなど、ジャンルをこえた創造の芸術祭へ。その入り口を少しだけ紹介します。



◎みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ2014

- 会期:9月20日(土)~10月19日(日)
- 会場:山形県郷土館「文翔館」(旧県庁舎/県会議事堂)、東北芸術工科大学、やまがた芸術学舎、他
- 招待アーティスト:青葉市子/荒井良二/いしいしんじ/梅佳代/大友良英/カジワラトシオ/川村亘平斎/Goma/齊藤洋平/坂本大三郎/佐藤那美/スガノサカエ/鈴木昭男 × 鈴木ヒラク/spoken words project/高木正勝/テニスコーツ/トラフ建築設計事務所/トンチ/中島ノブユキ/七尾旅人/畠山美由紀&ショーロクラブ/東野祥子/平澤まりこ/三瀬夏之介/吉増剛造/和合亮一
- (※2014年5月14日現在。50音順、敬称略)
- 地域連携プロジェクト:ひじおりの灯/ホソミチくんと五・七・GO!/みちのおくつくるラボ/キッズアートキャンプ山形/東北画は可能か? 他
- 総合プロデューサー:根岸吉太郎(映画監督/東北芸術工科大学学長)
- 芸術監督:荒井良二(アーティスト/絵本作家)
- 主催:東北芸術工科大学
- URL: <http://biennale.tuad.ac.jp/>



山形新聞の漫画創作プロジェクトが始動
荒井良二さんが協力しています。

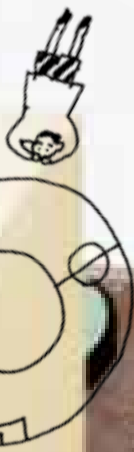
山形新聞が主催・企画した漫画創作プロジェクトに協力し、「ホソミチくんと五・七・Go〜!」を実施。山形新聞の紙面で皆さんが思う「やまがた」を五七五で表現した言葉を募集し、アーティストの荒井良二氏が漫画作品に仕上げるというもの。描かれた作品は、荒井氏がアートディレクターをつとめる「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ2014」で展示披露予定です。

トラフ建築設計事務所

建築の設計をはじめ、インテリアデザイン、展覧会場構成など多分野で活躍し、石巻工房のプロダクトデザインを手がけるなど、東北とも継続的なつながりを持つトラフ建築設計事務所が山形ビエンナーレ2014に参加します。企画しているのは、2006年に発表したプロジェクト「WORLD CUP 2006」をベースにした、一風変わったサッカープロジェクト。通常は長方形のフィールドを円形にし、サッカーのルールやゲーム性を変化させていきます。「白線を少し変えることで人の動きは大きく変わります。そういう発想を、大人も子どもも楽しめるスポーツで直感的に体験してもらえれば」と語る鈴木浩一氏。「街ぐるみのイベントとして、地域の方と他県から来た方との連携が生まれる場にもなるのでは」と、禿真哉氏も期待を寄せました。



鈴木浩一 Koichi Suzuno(右)、禿真哉 Shinya Kamuro(左) トラフ建築設計事務所。2004年に設立。建築の設計をはじめ、ショップのインテリアデザイン、展覧会の会場構成、プロダクトデザイン、空間インスタレーションやムービー制作への参加など多岐に渡り、建築的な思考をベースに取り組んでいる。代表作「光の織機(Canon Milano Salone 2011)」は、会期中の最も優れた展示としてエリートデザインアワード最優秀賞に選ばれた。





spoken words project

ファッションとアートと同じ地平に見据え、境界を越えた思考で表現を発信しているファッションブランド〈spoken words project〉。主宰者で服飾デザイナーの飛田正浩氏は、詩人の和合亮一氏とコラボレーションし、服飾と言葉による未踏の表現を構想しています。東北で開催される芸術祭ということで、震災について想いが過るといふ飛田氏。「被災地でのボランティア活動や、南相馬市の子どもと創り上げた舞台『新訳 てぶくろ』で衣装を担当した体験が、強く印象に残っています。和合さんとは当初、震災へのセンチメンタルとは距離をとった方がいいと話していましたが、今は心のまま、意識せず作為なく表現することを考えています」と語り、ファッションをアートの解釈で見せることに強い意欲を示しました。



飛田正浩 Masahiro Tobita
spoken words project代表、服飾デザイナー。多摩美術大学在学中から〈spoken words project〉の名義で、音楽、詩、デザインなど様々な表現活動を行い、卒業後、同名のファッションブランドを立ち上げる。現在は、アーティストのライブ衣装や舞台美術、テキスタイルデザインなども手がけ、領域に捕われず活動を広げている。

EVENT SCHEDULE

●紅花colors × 時の種子

半夏生の7月2日から、美術科テキスタイルコースによる展示を開催します。
日時:7月2日(水)~27(日)
会場:白鷹町文化交流センターAYu:M

●コミュニティデザイン学科夏合宿「SUMMER IDEA CAMP」

「ふるさとを元気にしたい」高校生募集します! コミュニティデザイン学科では、高校生と一緒にコミュニティデザインを学ぶ夏合宿「SUMMER IDEA CAMP」を開催。参加者募集中です。詳しくは、東北芸術工科大学入試課まで。
日時:7月26日(土)~28日(月)
会場:東北芸術工科大学キャンパス
参加費:無料(交通費の他、宿泊費10,300円[2泊3日朝食付]、保険料500円、昼・夕食代2,000円程度が別途かかります)

●悠創の丘で芸工大生とつころろ! 四季を楽しむ創作教室

美術科総合美術コースの学生を中心に、親子で楽しめる様々なアートワークショップを開催します。
日時:7月27日(日)10:00~12:00「夏を感じる創作教室」
日時:10月26日(日)10:00~12:00「爽りの秋の収穫祭!」
会場:共に悠創の丘「悠創館」
対象:共に子ども~大人45名
お問合せ・お申込み:悠創の丘企業共同体 (株)モンテディオ山形
TEL:023-655-5900

●夏のオープンキャンパス

夏のオープンキャンパスは8月2日(土)・3日(日)の2日間開催。春のオープンキャンパスよりパワーアップした内容でお待ちしております! 東北、北関東の各地から無料直通バスも運行します。
日時:8月2日(土)・3日(日)10:30~17:00
会場:東北芸術工科大学キャンパス
URL:<http://blog.tuad.ac.jp/>

●荒井良二ライブ&ペインティング&トーク&ブックフェアみちのおくだ門

巨大な「門」を描く荒井良二さんのライブペインティングは4時間超! 東京→仙台→そして山形と、「みちのおく」への旅の入口をひらく門を公開制作します。また、伝統工芸品とアート書籍を取り扱うお店「カネイリミュージアムショップ」が、山形ビエンナーレ関連書籍やCDを一同に集めたブックフェアを開催。
日時:8月24日(日)14:30~19:00(開場14:00)
会場:せんだいメディアテーク1階オープンスクエア
入場:無料(予約不要/入退場自由)
参加アーティスト:荒井良二、トンチ、根岸吉太郎、坂本大三郎
URL:<http://biennale.tuad.ac.jp/>

●2015年度 AO入試

体験授業や面接を通して、受験生の学ぶ姿勢や意欲、将来性などを多角的に評価するAO入試の出願期間は下記の通りです。詳しくは募集要項をご覧ください。
出願期間:8月22日(金)~9月4日(木)
試験日:9月13日(土)または14日(日)

●東北芸術工科大学大学祭「芸工祭」

内外からお越しいただく皆様との交流を通じて、芸術、デザインを身近に感じていただくための機会として、大学祭「芸工祭」を開催します。
日時:9月20日(土)・21日(日)10:00~17:00(予定)入場無料
会場:東北芸術工科大学本館、正面広場、能舞台「伝統館」、各学実習棟ほか

●みんなで守っぺ! おらだの文化財連続公開講座

文化財保存修復研究センターでは、地域文化財を守り活用する課題を地域の方と共に考える場として連続公開講座を開催します。
日時:10月16日(木)18:00~19:30「屋外彫刻の保存のあり方」
講師:藤原徹教授
日時:11月13日(木)18:00~19:30「地域文化遺産の保存-明治期の油彩画を例として」
講師:大場詩野子研究員
日時:12月18日(木)18:00~19:30「文化財を守る仕事」
講師:米村祥央講師

●全国高等学校デザイン選手権大会「デザセン2014」

高校生の視点で、社会や暮らしのなかから問題・課題を見つけ、その解決方法を分かりやすく提案する「デザセン」の参加チームと一次審査の企画書を募集中です。また決勝大会を下記の日程で開催します。
受付期間:4月1日(火)~7月2日(水)
決勝大会:10月26日(日)12:30~
会場:東北芸術工科大学

●紅花ルネサンスvo.7

毎年恒例と成った紅花のワークショップとシンポジウムを開催します。
日時:12月19日(金)・20日(土)
会場:本館前庭、こども芸術大学こども劇場

※在学生や卒業生の方からのイベントなどの告知や、受賞情報をお待ちしております。広報室へお気軽にご連絡ください。また、日程や掲載内容は変更になる場合がありますので、HPなどで事前にご確認願います。

絵本から飛び出したような空間のなか育まれる、東北と芸術の輪。

仙台にある「ArtGallery そあとの庭」は、NPO法人 東北の造形作家を支援する会の活動拠点。その名の通り、東北にゆかりのある造形作家を支援する活動をはじめ、仙台市内の児童館や石巻の子育て支援センターを訪れてのワークショップ開催など、様々な形で市民と芸術とを繋いでいます。ここでスタッフとして働くのは、美術科総合美術コースの卒業生・小川牧さん。展示会の管理業務や子ども達とのワークショップ、そしてカフェの店員と、忙しくも充実した毎日を過ごしています。「準備の面で大変なことが沢山ある分、展示会場が完成した時やワークショップで子ども達の笑顔に出会えた時は本当に嬉しいですね」。

WEB NPO法人東北の造形作家を支援する会の活動内容をご紹介します。



TUAD IS HERE

●日常の中の芸工大

表紙のアート



ありとあらゆるものを送り、贈る、「ものおくり」田中望さんが VOCA 賞を受賞しました。

自然が産んだ命を貴重な恵みとして受け取り、祀り、もう一度彼岸へと送り次世代へとつなげる小さな文化の集落と、日本の原始信仰に通じる大きな流れを描いた作品『ものおくり』。大学院洋画領域2年生の田中望さんの作品が、現代美術の登竜門とされている美術大賞「VOCA (ヴォーカ) 展 2014」で、大賞にあたるVOCA賞を受賞しました。

WEB 田中望さんの声とこれからの展望を伝えます。

g*gとは

芸工大広報誌のタイトルは「g*g」。最初の「g」は芸工大のgであり、もうひとつの「g」は芸術市民のg。文化的志向を持つ皆さんを「芸術市民」と名付けました。あの絵が好き！このデザインがかっこいい！景観がきれい！こんな風に日常の中で感動できる人は立派な芸術市民。そんな芸術市民のみなさんと芸工大が、「+」より強い「*」で結ばれることで、新しい何かを創り上げていきたい、そんな思いを込めて「g*g」、親しみを込めて「ジー・ジー」と呼んでください。

東北芸術工科大学

【芸術学部】文芸学科、美術史・文化財保存修復学科、歴史遺産学科、美術科〔総合美術/日本画/洋画/版画/彫刻/工芸(漆芸、陶芸、金工)/テキスタイル〕

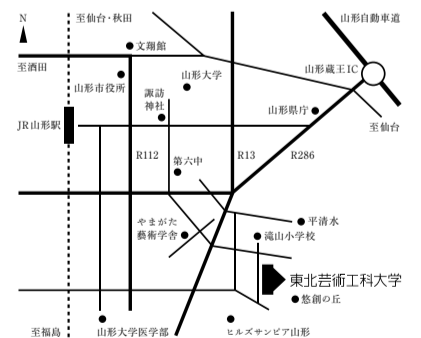
【デザイン工学部】コミュニティデザイン学科、企画構想学科、プロダクトデザイン学科、建築・環境デザイン学科、グラフィックデザイン学科、映像学科、メディア・コンテンツデザイン学科

【大学院芸術工学研究科】博士後期課程 芸術工学専攻、修士課程〔芸術文化専攻/デザイン工学専攻/デザイン工学専攻 仙台スクール〕

【研究機関】東北文化研究センター、共創デザイン室、美術館大学センター、こども芸術大学、文化財保存修復研究センター、東北復興支援機構、デザセン、創造性開発研究センター、文明哲学研究所

g*g オフィシャルサイト <http://blog.tuad.ac.jp/gg/>

大学周辺マップ



東北芸術工科大学広報誌 g*g

2014年6月19日発行

発行：学校法人東北芸術工科大学

〒990-9530 山形県山形市上桜田3-4-5

東北芸術工科大学広報室

TEL: 023-627-2246 FAX: 023-627-2185

URL: <http://www.tuad.ac.jp/>

Email: hello-gg@aga.tuad.ac.jp

©東北芸術工科大学 Printed in Japan 2014

印刷：田宮印刷株式会社